



大沢ひまわり隊隊長 粉川昭一さん  
大沢小学校のPTA会長として、大沢ひまわり隊設立のために活躍。設立後は隊長として、子どもたちの安全を守るために活動しています。

## 大沢ひまわり隊

女の子が通っていた大沢小学校では事件後、PTAの呼びかけで「大沢ひまわり隊」を結成しました。大沢ひまわり隊には、保護者や地域に住んでいる方、学校の教職員などが参加して子どもたちの安全を守るために活動しています。大沢ひまわり隊の粉川昭一隊長に話を伺いました。

### なぜ必要だったのか

大沢ひまわり隊が必要とされた理由を「向こう三軒両隣、しようゆの貸し借りの関係がある地域、またはあった時代なら、電話一本でお迎えを代わりにしてもらえませんか」と話す粉川さん。「でも、人が増え、場合によっては隣に住んでいる人の顔も知らないこともある現代は、隣近所で頼める人が見つけれない人もいます。だからといって、人の温かい心がなくなっ

まっただけではないと思うんですよ。困っている人と助けてくれる人の橋渡しをする組織が必要でした」。ひまわり隊が行っている活動の中にお迎え代行があります。保護者が急な病気などで迎えに行けないとき、お迎えを代行してくれる人を登録されている方の中から手配するサービスです。「5月に初めての利用がありました。下校時刻30分前の連絡だったんですが、登録している方に連絡すると快く引き受けてくれました。引き受けてくれた方はすばらしいですよ。人の温かみを感じました」。

### 大沢ひまわり隊の結成

大沢ひまわり隊は、地域組織の安全安心パトロールと通学路の安全に主眼を置いたスクールガード、2つの役割を併せ持った地域自主防犯活動組織です。「事件から半月後には設立の準備を始めました。本当にごく短期間で組織が立ち上って。真剣になってやれば出来るものだと思いますね」。結成時に556人だった隊員は現在、669人に増えています。「保護者や教職員以外の隊員は、自分から名乗り出ないと登録されませんですよ。にもかかわらず、288人もの方が登録してくれています。全員が毎日活動しているわけでありませんが、たくさんの方が快く協力してくださる、ありがたいことだと思っています」。これほど大きな組織がごく短期間で結成されたことに、保護者をはじめ、地域の真剣さが伝わってきます。

### 張り詰めた空気

結成前に行われたPTA総会には、ほとんどすべての保護者が参加したといます。「子どもにどう接していいのか悩んだ親も多かったようです。実際に私も悩みました。ニュースを見せてもいいのか。どう説明していいのか。この地域の親御さんはいろいろと難しい思いをしたと思います」。組織が結成される前後の様子を粉川さんは「張りつめた空気、非日常的な体験でした。今でもカメラを向けられることを嫌がる人もいますし。子どもたちがそういう環境に置かれたことは、本当にかわいそうでした」と話してくれました。こうした体験が、子どもたちを守りたいという強い思いにつながっています。

### 活動の開始

年が明けて、1月下旬。ひまわり隊は通学路の危険個所での見守り活動や登下校時の完全付き添い、パトロール活動を開始しました。「車で通つただけでは分からないことも、子どもと一緒に歩くことで気付くことがたくさんありました。前よりも通学路の安全に皆さんの関心が高くなっているのを感じますね。今までは、誰かがやるだろうと見過ごしていた問題も、気づいた人が自ら解決のために動くことが多くなっていますから」また、「隊員同士の交流が出来てきました。今までは道で会ったときにあ